

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

(和文) 灌頂と即位の文化史

(英文) Unction and Coronation

2. 研究代表者

(氏名) 藤井 正人

3. 研究期間

平成23年4月から平成26年3月まで(3年間)

4. 研究目的(400字程度)

本共同研究は、共同研究「王権と儀礼」(2005.4-2011.3)を進展させるため、テーマを新たに
して発足させるものである。前共同研究では王権とそれに関わる儀礼全般を対象としてきたが、
この共同研究では、古代インドなどにおいて即位や入門の儀礼で中心的な行為となっている「灌
頂」に焦点をあて、その行為の基本形態、類型、変化、伝播、異文化との混交などに関して、文
化史的アプローチから研究する。広範囲の地域と時代にわたる文化事象として、古代インドの、
王即位式をはじめとするさまざまな祭式に現れる「灌頂」から、インド、中国、日本の仏教の入
門入信儀礼における「灌頂」、さらには、天皇の即位儀礼としての「灌頂」などが研究の対象とな
りうる。研究方法としては、各種事例の比較研究を進めるとともに、他分野の研究者に負担をか
けない形で文献資料の基礎研究をも行う。具体的には、課題に関する研究報告を集中的に行う「研
究集会」と、古代インドの王即位式に関するサンスクリット資料の校訂と訳注を行う「会読」と
いう二種の研究会を、切り離した形で開催して研究を進める。

5. 研究成果の概要(400字程度)

本共同研究3年間の主な成果は以下のとおりである。まず、灌頂と即位に関する文献資料
に基づく基礎研究の成果として、灌頂が祭式の重要な要素として現れ、灌頂と即位の詳細な儀
礼次第を伝える古代インドの王即位式(ラージャスーヤ)に関して、ヴェーダ祭式文献の中か
ら、成立年代の古いブラーフマナ文献(祭儀書)と新しいシュラウタストラ文献(祭式綱要
書)から、未翻訳の『タイッティリーヤ・ブラーフマナ』と、文献および学派伝統の上でそれ
と関係のある未出版・未翻訳の『ヴァードゥーラ・シュラウタストラ』の英語による訳注を
班員が共同して作成した。さらに、灌頂と即位に関する比較研究として、特にインド古代のヴ
ェーダ文献とインド中世の叙事詩およびタントラ文献における灌頂と即位および潔斎・入門・

入信等の関連事項に関する共同研究を行い、ヴェーダ文献と叙事詩およびタントラ文献の海外の専門家による国際シンポジウムを開催した（下記参照）。

6. 本研究課題に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

国際シンポジウム **Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India**

（古代および中世インドにおける潔斎・入門／入信・即位の諸儀礼） 2012年12月23日

京都大学人文科学研究所

公開講演・討論会 2013年12月13日 京都大学人文科学研究所

ゲストスピーカー

Patrick Olivelle, *Material Culture in Ancient India and Kautilya's Arthashastra*.

第6回国際ヴェーダ学ワークショップ (2014年1月7-10日 インド・カリカット) 基調講演

Masato Fujii, *The Sautramani in the Vedic Coronation Rituals*. (Frits Staal memorial keynote address)

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

『ヴァードウーラ・シュラウターストラ』の王即位式（ラージャスーヤ）章の校訂テキスト、ならびに『ヴァードウーラ・シュラウターストラ』と『タイッティリーヤ・ブラーフマナ』の当該箇所英語による訳注を、今後2年をめどに出版する予定である。